



令和2年 1月 9日

ご関係の皆様方へ

大阪市立東三国小学校
校長 原 雅 史

東三国小 「主体的・対話的で深い学びのある授業」研究

第3回 全市公開授業のご案内

新春の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

さて、本校は今年度2回の全市公開授業を行ってきました。1度目は本当に右も左もわからないままでの公開授業でした。そして2度目の公開授業ではある程度形ができあがり、スーパーバイザーの小畑先生からも「こどもたちのがんばる姿が増えたね」と一定の評価をいただくこともできました。

しかし、私たちがめざす「主体的・対話的で深い学びのある授業」の研究は、ここからが正念場と言われており、形・器はある程度できあがっても、その中身を整えるのには膨大な時間がかかり、永久に研究を続けなければいけないとまで言われています。そのような果てしない研究の端緒についたばかりの私たちですが、今回少しだけ前進した姿の一部をお見せできればと考えております。そして本校の取り組みの様子をじっくりとご観察いただき、厳しいご指導ご鞭撻を頂戴しながら、皆様とともに、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりの研究を進めることができると願っております。

新年早々の何かとお忙しい時候ではございますが、どうぞ万障お繰り合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

1 開催日時

		実施日	中心授業	スーパーバイザー
済	全市公開授業	6月20日(木)	5年生社会科 「水産業」	小畑 公志郎
済	全市公開授業	10月10日(木)	6年生算数 「速さ」	小畑 公志郎
第3回	全市公開授業	1月29日(水)	1年生国語「歯がぬけたらどうするの」	小畑 公志郎
	全市公開教育授業	2月20日(木)	未定	佐藤 学

ビデオ授業研究会は年間10回を予定。詳細は別紙をご参照ください。

・スーパーバイザー 佐藤 学 先生 元東京大学大学院教授 日本教育学会元学長 学習院大学教授
著書『学び合う教室・育ち合う学校：～学びの共同体の改革～』他多数

・スーパーバイザー 小畑 公志郎 先生 元宝塚市立小学校校長
著書『授業づくりで子どもが伸びる、教師が育つ、学校が変わる』など

2 会場

大阪市立東三国小学校 〒532-0002

大阪市淀川区東三国6-3-24 電話 6391-0366・大阪メトロ御堂筋線「東三国駅」下車 西北へ500m

3 公開授業 時程 (公開授業①②では全学年全クラスの公開を予定しています)

10:00 10:45 11:30 11:40 12:25 13:45 14:30 14:45 15:30 17:00

受付	公開授業 ①	公開授業 ②	休憩	中心授業	休憩	研究 協議	スーパーバイザー 講話
----	-----------	-----------	----	------	----	----------	----------------

4 申込方法

- ① スキップメール 大阪市立東三国小学校 教頭 千葉 法幸 まで
② FAX 後のページのFAX送信票でお申し込みください。

「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり

学びの共同体研究プロジェクト

1 「深い学び」をもとめて（その1）

令和2年、いよいよ4月から新学習指導要領が完全実施となります。文部科学省は保護者をはじめ多くの方に、このことを周知していくために、広報ビデオを作製しております。内容は下記の通りとなっております。

2020年度 子どもの学びが進化『よくわかる新学習指導要領』
(政府インターネットテレビより)

2020年度より、小学校より順次新しい学習指導要領に沿った授業がスタートします。学校教育がめざしているもの。それは、変化の激しい社会に必要な「生きる力」を育むこと。私たちの暮らす社会は、ここ10年をみてもスマートフォンの普及からビッグデータ、人工知能の活用など技術革新も加速、グローバル化も進み、めまぐるしく変化しています。そうした社会の中で、学校で学んだことが、明日そして将来につながるように、子どもたちの学びも進化を求められているのです。

では、新しい学習指導要領で、子どもの学びがどう変わるのか？小学校の子どもを持つ保護者からの素朴な疑問に文部科学省の担当者が答えました。保護者の皆さんが聞いたかった主な内容は2つ。「英語」と「プログラミング」についてです。

保護者A 「私、小学校4年生の娘がいるんですけども、英語の授業とかが増えていくって聞いたんですが。」

文科省 「英語の活動は今でも行ってはいるんですけども、今回の新しい学習指導要領では、小学校3年生から英語に親しみながら、徐々に中学・高校の英語の授業につなげていけるような学習指導要領の改訂をしています。



それは教材を見ていただくのがいいかもしれませんが…。今、皆さんに覧いただいているのが、小学校5・6年生で使われている外国語の教材です。

例えば31ページ見ていただけますか。これまでの英語の授業ってどっちかっていうと、いろいろな文章を読んだりというのが多かったんじゃないかと思います。

今回の学習指導要領ですね、特に子どもたちは親しみながら英語を学んでいくっていうことを重視していますので、例えばここでは自分たちの町について調べて、それを英語で発表しようと。例えば、自分たちの街は、こういうふうな、こういうところが素敵なんだよ、こんなことあるんだよ。授業の中で、コミュニケーションとりながら学んでいくようなイメージをしています。

やっぱり、自分たちに身近なテーマ、それを取り上げて自分を伝えたい気持ち、それを英語というツールを使って表現していくということが…」

保護者A「私たちの頃は、本当に先生にこういうことだよというふうに、教えられたことを繰り返す、反復反復だったのが、自分たちからってところがすごいなと思いますね。」

そう、新しい学習指導要領では、英語に限らず、どの教科も子どもたちが自ら考え、対話しながら学んでいくことを重視しています。そしてもうひとつ…。

保護者B「プログラミングの授業も始まると…」

文科省「おっしゃる通りです。今回の学習指導要領の大きなポイントがプログラミングを小学校の段階から始めていこうとする点なんです。とはいっても、難しいプログラミング言語とか難しいことを学ぶといよりは、今はいろいろなものが便利になってしまっていて、子どもたちは、どうしていろいろな機械が動いているのか？わからなくなっている。そこをプログラミングを学ぶことによって、ちゃんと人間がデザインしていろいろな機械が動いてるんだってことを知ってもらいたいと…。」

実際にどんなものなのか、見せていただくことに。

文科省「これがスクラッチとう、多くの小学校で使われているソフトになります。プログラミング、ここにいろいろなコマンドが一つ一つ指示するものになっているんですけども、こういったものをつなげていく。

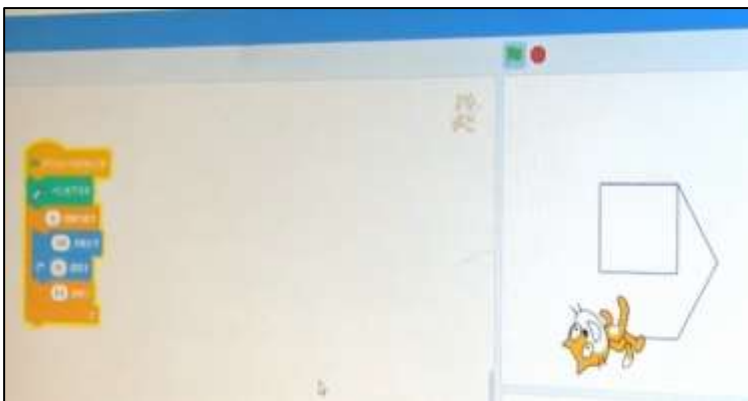
例えば、フラッグを押したときにペンをおろす。書き始めるわけですね。猫ちゃん

んがいますけれども、猫ちゃんを使って四角形を作ると、というときには、何歩か進んで、進んでいって、90度回ってくると… その指示をつくります。まず100歩動かす。動かすだけではそれで終わってしまいますので、四角形を作るためには、90度回していくという作業が必要になります。これで一応簡単なコマンドは作られました。じゃあ、これを実際にここで動かしてみたいと思います。」（猫が四角形を書く）

保護者一同「うわー、すごい。」

保護者「自分で動かしているということになりますもんね」

保護者B「六角形ですと…」「六角形ですから、6回、回さないで。6回、回すんですよね。」



「360度だ。6で割って60度。それを6回繰り返せば…。実行します。」

「わー、すごい」

このように、学ぶ内容を進化させていくだけでなく、新しい学習指導要領で重視されるのが、どの教科も、子どもたちが自ら考え、対話しながら考えていく学び方、そんな授業の改善が始まります。

これまでの授業ですと、皆様のご記憶にもあると思うんですけども、先生がだいたい授業の大半をしゃべっているという部分が大きかったかもしれませんが、なるべく子どもたちが対話をして、考えていくと、自分の考えを表現するというのを、今回1つの大きなねらいにしています。

そうした授業を既に取り入れている小学校を取材しました。3年生の教室で行われていたのは、この地域で古くから親しまれてきた、植物「つつじ」について学んだことを冊子にまとめる授業。

児童A「みんなで、どれがいいか、意見を出し合おう！」

児童B「こんなにきれいなものになるんだよ、みたいなことが伝えられるから、写真はいいと思います。」

つつじについて、学んだことを、どのようにまとめていくか

児童C「写真入り？」「写真日記」「写真入り日記」

先生が見守る中、アイデアを書き出していきます。

文科省「新しい学習指導要領の中では、アクティブラーニングということで、子どもたちは、自分たちで課題を見つけて、そして議論をして、その中で子どもたちは、例えばそれまで国語で学んだ、相手にどういう表現をしたら伝えられるのか、よりよく伝えられるのか？ということを中心にみんなで議論して、みんなの前で発言するわけですけども、それに対してみんなから当然、いろいろ批判があったり、意見があったり、つけたしがあったりする。それを通じて、みんなで考えを深めていく。これがほんとうのアクティブラーニングだと。

担任教師「子どもたちの想いを引き出すのをこちらで誘導しないということと、引き出すために質問に集中するということを気をつけています。

児童D「つつじ日記の中に写真と魅力を入れた方がいいと思います。」

自分で考えると同時に、友だちの考え方に向き合いながら、結論を導いていく。最後まで飽きることなく、取り組んだ子どもたち。チャイムが鳴ってもこの表情。

文科省「（子どもたちに）今の授業楽しかったですか？」

児童「はい！」

文科省「（保護者に向かって）どの教科でも…」

保護者「どの教科でも、へー」

文科省「子どもたち、自分たちの考えを表現したりする。そういった機会をつくって、最終的にいろいろな力をつけていこうと。大事なものは何ができるようになるのか？そこだと思っているんです。」

これからの社会が、どんなに変化して、予測困難になっても、子どもたちが自らの資質や能力でそれぞれに描く幸せを実現できるようにするために「学びの進化」には、学校での取り組みはもちろん、保護者や地域の方々の子どもたちへの働きかけが大切です。

文科省「やっぱり子どもたちが学校で学んだことを振り返ることが、すごく大事だと思っているんです。例えば、ご家族が、今日学校で学んだこと、どんなことだったの？と問いかけてあげるだけで、子どもたちがご家族の方に、説明したりする中で、改めて本当に理解できているのか？そういった振り返りにもつながっていくのかなと思っていますので、ぜひ、ご協力をお願いできればありがたいなと思っています。」

新しい学習指導要領が目指すこと、それは、学校と保護者、地域が一つとなって子どもの未来を見つめること。どんなに社会が変わっても子どもに生きる力を育てていきます。



上記のビデオは「政府インターネットテレビ 新学習指導要領」で検索していただきますと、すぐに視聴することができます。とてもわかりやすくできており、保護者や地域の方も新しい学習指導要領の内容が、よく理解できるものになっております。

この4月からは、従来のような、「教師主導の講義的な反復練習主体の授業」をすることは、保護者、地域からも許されるものではなくなるぐらい、このビデオは優れた仕上がりになっています。

このビデオ、上記で述べましたように、非常によくできてはいるのですが、新学習指導要領の「器」的なところの紹介にとどまっている感があります。保護者、地域向けのビデオなので、これはこれでいいのかもしれませんが、現場に立つ我々としては、大きな課題が残ります。それが、今回のテーマでもあります「深い学び」をどう構築していくのか。

最近、各所で「主体的、対話的で深い学び」のある授業を研究テーマにした公開授業が行われ、私もいくつか見ていきましたが、「深い学び」のある授業づくりにはどこも苦戦しているように見受けられました。一定、主体的で対話的な授業にはなっているものの、そこでとどまっていることが少なくなく、本校においても大きな課題となっているところがあります。それがまさに、「器は整うのだが、中身が充実してこない」状態であります。

これを改善する方策として、下の5つの視座から考えてみたいと思います。

- 1 新学習指導要領では、なぜ「主体的、対話的で深い学び」のある授業が求められているのか
- 2 従来の学習指導要領とは、どこが大きく変わっているのか。
- 3 「主体的・対話的で深い学び」を実現する3つのポイント
- 4 そもそも「学び」とは？
- 5 「深い学びに誘う課題」の研究は十分におこなわれているのか。

1 新学習指導要領では、なぜ「主体的、対話的で深い学び」のある授業が求められているのか

(1) これについては、様々な答えが考えられます。ひとつは、既に各所で論じられていますが「ラーニングピラミッド」にその答えを求めるものです。つまり、授業は「聞く」だけでは5%しか記憶に残らず、「他者に教える」ことで90%以上の定着が見られるというものです。類似した考えに、「ドライバーズ理論」もあります。助手席に座っているだけでは、道を覚えることは難しいというものです。

これら、脳科学、認知心理学関係以外に答えを求めると、「従来の講義型一斉授業は、現代社会において相容れるものではない。従前の産業社会型教育から知識基盤型社会に合った教育に進化させなければいけない。」という歴史的社会的な部分に解答を求めるところもできます。下記の表がその証左のひとつです。

1989年(平成元年)			2019年(平成31年)		
1	NTT	1639 日本	マイクロソフト	9049	アメリカ
2	日本興業銀行	716 日本	アップル	8957	アメリカ
3	住友銀行	696 日本	アマゾン・ドット・コム	8747	アメリカ
4	富士銀行	671 日本	アルファベット	8170	アメリカ
5	第一勧業銀行	661 日本	パークシャー・ハサウェイ	4939	アメリカ
6	IBM	647 アメリカ	フェイスブック	4758	アメリカ
7	三菱銀行	593 日本	アリババ・グループ・ホールディング	4692	中国
8	エクソン	549 アメリカ	テンセント・ホールディングス	4378	中国
9	東京電力	545 日本	ジョンソン&ジョンソン	3722	アメリカ
10	ロイヤルダッチシェル	544 イギリス	エクソン・モービル	3424	アメリカ
11	トヨタ自動車	542 日本	ビザ	3393	アメリカ
12	GE	494 アメリカ	JPモルガン・チェース	3315	アメリカ
13	三和銀行	493 日本	ネスレ	2929	スイス
14	野村證券	444 日本	中国工商银行	2870	アメリカ
15	新日本製鉄	415 日本	ウォルマート	2799	中国
16	AT&T	381 アメリカ	バンク・オブ・アメリカ	2659	アメリカ
17	日立製作所	358 日本	サムスン電子	2611	アメリカ
18	松下電器	357 日本	P&G	2603	韓国
19	フィリップモリス	321 アメリカ	ロイヤルダッチシェル	2569	中国
20	東芝	309 日本	ノバルティス	2453	アメリカ

これは「この30年間で日本はどうなった？」大企業ランキング（時価総額 億ドル）（週刊ダイヤモンド 2019,5,19号の特集）の記事ですが、見事に日本企業の衰退を表しています。2019年で日本の企業では「トヨタ自動車」が43位に入るのが精一杯ですが、ランキングより目を引くのが、時価総額の数値です。1989年1位のNTTが1639億ドルですが、2019年1位のアマゾンは9049億ドル。つまり、日本の企業が衰退したというより、世界の企業の成長が著しいのです。逆に言うと、この30年間で日本社会は全く成長しなかったと言っても過言ではありません。なぜ、こうなってしまったのでしょうか。世界と日本の違いはどこにあったのでしょうか。

もちろん、経済問題の原因を、教育だけに答えを求めることはできませんが、少なくとも理由の一端ぐらいは持っているのではないのでしょうか。

(2) またこのような、違いも挙げられます。

【世界の人が驚く日本の学校の姿】

- 1) 学校の教室に冷暖房設備を完備していない国は？
- 2) 授業中にICTの活用が、あまり行われていない国は？

- 3) 運動会、修学旅行、入学式、部活動をしている国は？
- 4) 高校受験をしている国は？
- 5) 清掃活動をしている国は？
- 6) 黒板を使って授業をしている国は？

答えはすべて「日本」です。しかも各質問とも、30年前ならば色々な国の名前が挙がっていましたが、今ではほとんどで実施されていません。世界の中で日本だけで続けられているものが多く、今や日本の教育はかなりオリジナリティにあふれた、クラシカルなものになっているのは間違いないということを知ってください。

特に、6) について。黒板は、もはや欧米諸国では30年前に教室からなくなっています。つまり、講義一斉型の授業をしていないのです。アジア諸国でも近年どんどん教育改革の波がおとずれ、ついに世界の中で日本だけが100年以上前の教育システムで授業が行われる稀有な国になってしまいました。

世界は既に「産業社会型」教育から「知識基盤型」教育にシフトチェンジされてきたのですが、日本ではこの30年間変わらず「産業社会型」の教育が行われてきました。

日本は30年前までは、間違いなく世界有数の教育国で、洗練された「産業社会型」教育、非常に効率的で組織的な授業が行われ、他国からも目標にされてきたのが日本の教育でした。それだけにこのスタイルからなかなか、変えにくかったのかもかもしれません。

② 従来の学習指導要領とは、どこが大きく変わっているのか。

『資質・能力と学びのメカニズム』（奈須正裕著）より

- (1) 学力のグローバルスタンダードは、すでに「何かを知っているか」という領域ごとに区分された知識の体系ではなく、知識や技能を自在に活用して「何ができるか」、より詳細には「どのような問題解決を現に成し遂げるか」という汎用的な資質・能力の体系となっている。
- (2) 学校教育がはたすべき役割の水準から議論された
 - 1) 従来は教科別の議論の結果を綴り合わせたものが、教育課程になっていた？
 - 2) 教育課程企画特別部会が10ヶ月行われた後に従来の教科等別の部会が開催
 - 3) 学習する子どもの視点に立つ
 - 4) はじめに在来の「教科ありき」ではなく、また「内容」の習得それ自体が教育の最終目標でもないことを言明

③ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する3つのポイント

『資質・能力と学びのメカニズム』（奈須正裕著）より

「今回の学習指導要領では指導内容の削減は行わないのですが、それでどうやってアクティブラーニングを実施し、資質・能力も育てるのか」という声があります。これに対して、アクティブラーニングの実施によって、資質・能力を育てるからこそ、現状の学習内容のすべてを無理なく扱い得ると答えたいと思います。

もちろん、そのためには指導の仕方を抜本的に変えなければいけません。現状の発想でアクティブラーニングを導入すれば、当然授業時間は大幅に不足するでしょう。なぜな

ら、それは授業を推進する力として、子どもたちの学びに向かう力や思考力の発揮を一切あてにしていないやり方だからです。そこが授業づくりのそもそもの原理としてとんでもなく間違っていると、私は思います。

子どもは学ぶ力を持っているし、さらにそれを鍛え上げることにより、自らの意思と能力で内容をどんどん学び進めてきます。本来、授業は子どもと共に創るものであり、子どもと共に進めていくものです。

『主体的・対話的で深い学び』の実現とは、特定の指導方法のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く『学び』という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びのあり方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。（中教審答申より）

（１） 有意味学習

１） 子どもはすでに膨大な知識を持っている。

（例） 降水確率など

２） 既有知識を洗練・統合する教師の意図性・指導性

子どもたちが持っている既有知識を活かして授業づくりを進めようと言ってきましたが、それはただただ子どもたちに好き勝手に話させることではありません。子どもたちが持っている、いい線はいつているが不正確であったり断片的である知識を、洗練させたり統合させていけるよう、教師が意図性や指導性を効果的に発揮することが併せて必要です。

（例） 靴のサイズ、体重など

大切なのは、既有知識を導入での意欲付けに使うのではなく、それで１時間、場合によっては単元全体を学び進めていくことです。

さらに、よく知っていると思い込んで知るからこそ、お互いの知識をすり合わせ、整理していく中で、「何か変だぞ」「わからなくなってきたけど、何とかはつきりさせたい」「もしかするとこういくことかな」「やっぱりそうだった」と自分たちの既有知識を足場により精緻で統合的な理解へと学びを深め、ついには正確な既念的理解へと到達するのです。

３） 対話的な学びによる知識の構築

有意味学習の足場となる既有知識には、もちろん学校の授業で正規に指導してきたフォーマルな知識も、いわゆる既習事項として含まれます。そして、それらは従来の授業づくりでも常にしっかりと確認され、活用されてきました。

しかし、さらに膨大で広範囲な知識や経験を、子どもたちはインフォーマルな知識として所有しています。ところが、従来の授業づくりではそれを十分に活かしてきませんでした。理由の１つは、インフォーマルな知識は個々人の生活経験やその主観的解釈に依存しているため、常に具体的・特殊的・個別的であり、不完全であったり偏っていたり、時には誤ってもいるからです。これはフォーマルな知識が目指す抽象的・一般的・普遍的という特質とは正反対です。著しい偏りや誤りを含むインフォーマルな知識もまた、フォーマルな知識獲得の足場となりえるのでしょ

か。1つの事例で考えてみましょう。(スーホの白い馬の例話)(中略)

この女の子に典型的なように、インフォーマルな知識は時に大きく偏っています。しかし、だからこそ一人一人のそれぞれに偏った知識や経験を共有の財産とし、その豊かな具体・特殊・個別の先に抽象・一般・普遍を構築しようと対話的に思考することに意味があるのです。実際、話し合いの末に子どもたちは「兄弟ってそれぞれだけど、でもだいたい互いに相手を思いやり、やさしく支え合う関係と考えるといいんじゃないか」と結論付けました。

4) 「主体的な学び」としての生き方に迫る学び

5年生社会科の授業の教室にて

「もしも私が豚だったらね」(国際児の女の子が自分をこのようにたとえ)

「お父さんはアメリカの豚、お母さんは日本の豚、その二人から生まれた私は、ウクライナの小麦や中国のトウモロコシを食べて育った。それで私は国産なの?」

自分が立っている床をあえて踏み抜き、人間の存在の底にまで達しようとするかのような圧倒的な深度での思考のダイビングに彼女は挑戦したのです。(中略)

「主体的な学び」の究極の姿は、自己の生き方、在り方に迫る学びということ。

(2) オーセンティック(真正)な学習

次の案内状で掲載いたします

(3) 明示的な指導

4) そもそも「学び」とは?

5) 「深い学びに誘う課題」の研究は十分おこなわれているのか。

本校の公開授業では、今全ての教員が日々、深い学びをつくるために、主体的で対話的な授業づくりを実践しているところであります。

もちろん、まだまだ完成形には至っておりませんが、公開授業に参加された先生方とともに、これからも探していくこと、学び合っていくことができると願っておりますので、どうぞ第3回公開授業にご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

3 研究概要

(1) 全体研究テーマ 「すべての子どもの学びを保障し、生きる力を育む」

今年度東三国小学校では、教科・領域は決めないで、

「協同学習」「学びの共同体」を研究テーマにして、各個人が個人研究のテーマを設定します。

(2) 個人研究：各自がこの1年間研究したい教科、領域を自由に選び、研究を進める。

4 研究計画

月	日	曜	公開教育	全市公開	ビデオ研	校内研修	講師	ビデオ研の担当学年、研修テーマなど
4	1	月				A 1	校長	学びの共同体とは
	10	水				A 2	校長	協同学習の授業
	23	火			1			2年・4年・5年
5	24	金			2			1年・3年・5年
6	7	金				A 3	校長	公開授業に向けて
	20	木		1			小畑 sv	5年社会 6/14にプレ研究会
7	5	金			3			2年・4年・6年
	24	水				A 4	校長	1学期を振り返って
	25	木				A 5	校長	1学期を振り返って
8	21	水				A 6	校長	2学期に向けて
9	20	金			4			1年・理科4年・5年
10	10	木		2			小畑 sv	10/4にプレ研究会
	25	金			5			2年・3年・6年
11	15	金			6			1年・3年・5年
12	6	金			7			2年・4年・理科
	25	水				A 7	校長	2学期を振り返って
1	17	金			8			1年・4年・6年
	29	水		3			小畑 sv	1/24にプレ研究会
2	7	金			9			2年・理科4年・6年
	20	木	○				佐藤 sv	2/14にプレ研究会
3	6	金			10			1年・3年・理科
	25	水				A 8	校長	1年間を振り返って

(1) 全市公開「教育研究会」(年1回)

年に一度だけ行う公開授業で、1年間の総まとめ的なものです。スーパーバイザーには元東京大学院教授の佐藤学先生にお越しいただき、スーパーバイズしていただき、さらには講演会も開いていただける予定です。大阪市内の公立小中学校では久しぶりの講演となり、協同学習の提唱者として、新学習指導要領に向けて、これからどのような準備をしないといけないのか、今の教育の最先端の話なども聞けることかと思えます。ぜひ多くの皆様のご来場をお待ちしております。

1) プレ研究会

- ①管理職、教務主任、研究部長、教科主任、学年教員などで実施
- ②「授業デザイン」を中心に教材、課題、思いなどを語り合う時間とする

2) 当日のタイムテーブル

- 10:30 受付開始 来校者は講堂などで待機 SVのお迎え。
3限・4限 公開授業 (全員、どちらかの授業を公開する)

校長はSVと共に各教室を回ります。

(昼休み SVから直接授業のコメントをもらう)

(授業クラスは、机椅子を体育館に運び込む 参加者人数による)

13:45 中心授業 (他学級は、給食後すぐに下校)

14:30 終了 児童はすぐに下校(机・椅子はそのままで)

14:45 研究協議(グループ→全体)

15:30 スーパーバイザー講話

(記録は、教務部。授業者は簡単な振り返りコメントを後日出す。)

(2) 全市公開「授業研究会」(年間3回 SV=小畑公志郎)

概要は同上です。年3回同じスーパーバイザーにご来校いただき、継続的、計画的な指導をいただく予定です。

(3) 校内授業研究会(ビデオ研)

1) 2つの学年が合体(チーム学年)して、ビデオを使って研究協議会を行う

2) ながれ

① 4月1・2日のチーム学年会で1~11の研究会の授業者を決める

② 授業前に全教員に授業デザインと座席表を配布

③ 授業当日は全教員が見学しても良いことにする。(学年教員はできるだけ参加)

④ 各自が自分の授業をビデオに撮る(斜め前から)

⑤ 後にビデオ研究会

・授業した教室のモニターを使う

・チーム学年+担外等で、ビデオをみながらゆっくり授業について語り合う

【研究協議会での約束】

1. 授業づくりの奥深さ、面白さを共有し、自分がその授業から何を学んだのか、自分が真似できることは何かを語る。

2. 決して授業の批判はしない。「自分なら…」という発言もできるだけ控える。

3. 授業の中で、授業者が「聴く」「つなぐ」「もどす」をどのように展開していたかを語る。

「聴く」…子どものつぶやきをひろう

「つなぐ」…子どもの発言つないでいく

「もどす」…全体が行き詰ったときなどは、教科書の音読、グループの交流に戻す

4. 同僚が授業を公開したことに対して感謝の念を込めて、全員が話す。

5. 「子どもの学び」についてたくさん語る。

—できていない子どもだけでなく、がんばっている子ども、関わっていない子どもに注目する

—どこで学びが成立したのか丁寧にひろう

「〇〇分ごろに、Aさんの△△という発言でBさんの表情が変化してたよ。」

「◇◇分に、Cさんのわからないを聞いてDさんが説明をはじめ、自分の勘違いに気づいてたよ」など

3) 当日のタイムテーブル

14:35 5限 授業終了

15:00 3か所(低・中・高)それぞれでビデオ授業研究会開始
(当日、どこで行われているかは、職員室でおたずねください)

17:00 終了

4) 教育センターの指導主事(当該教科)を招聘(SVでも可)

5) 各チーム学年で、ビデオ研修会の記録を行う。

⇒校務支援pc内にフォルダをつくり、定期的に「研究部通信」を発行する。

⇒研究部通信をもとに、年度末に研究紀要を作成する。

(4) 教材研究日 毎週金曜日(15:30~17:00)

1) 他に行事などが入っていない場合は、教材研究に集中して取り組む

2) 1週間の振り返り、翌週の教材研究などを行う

3) 各個人で実施してもいいし、チーム学年で行っても良いものとする

F A X 送信票

F A X 番号 06-6391-1998

全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込 参加申込書

送付先 大阪市立 東三国小学校
教頭 千葉 法幸
TEL 06-6391-0366
FAX 06-6391-1998

送付元	所属名(学校名)			
	ご担当者			
送付期日	各公開授業・研究会の3日前まで			
件名	全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込			
参加者	職名	お名前	参加希望日	

【お問合せ先】
大阪市立東三国小学校
(電話) 06-6391-0366
教頭 千葉まで